

一般質問

6月議会では16人の議員が一般質問に立ちました。

歴史観光立市

文化財の保護活用と

郷土芸能等の永久保存

前川議員

(1) 教育行政について

歴史観光立市としての文化財の保護活用の将来像は、本市には玖島城や三城城跡があり、現に武家屋敷などが残されているが、これまで広く活用されてきたとは言い難い面もあり、今後文化庁は本経寺も国指定を昨年、三城城跡も国指定級と評価の向、この様に歴史資産を歴史観光にどう生かすのか、保存整備はどうするのか、どうしたら人が来るのか、大村市の総合的なビジョンを指示する時期ではないか、協議会等の立ち上げの考えはないのか。

大村市の旧家に眠る歴史文化財の保存について。

本市の郷土芸能の永久保存についての考え方。

(2) 総務行政について

県央広域圏消防活動組織について。

本市に於ける旧軍施設（防空壕等）の現況とその対応策。

市長

(1) 「歴史を活かしたまちづくり戦略協議会」を立ち上げ

更に5つの専門委員会を発足させた。大村ならではの歴史遺産を観光資源として活用できるよう全力で取り組んでいる。

教育次長

実態把握に努め、市

が積極的に収集する姿勢を示し、所蔵者への理解を深め、保存に御協力をいただくよう努めたい。

支援策としての発表の場づくりを通じて、郷土芸能への理解を深めるよう努力したい。

市長

(2) 県央広域消防体制は、

昭和47年に発足以来、制度として定着をし、効果も上がっている。大村市消防本部として独立するとすれば、消防長以下の組織体制の整備による人員増、あるいは通信システムを初めとして施設設備の経費など、多額の財政負担の問題が発生する。大



玖島城跡 / 板敷櫓

規模災害に備えての広域相互応援体制を確立するためにも、現在の体制で維持してまいりたい

都市整備部長 調査中ではあるが、現在115カ所を確認している。公共施設にある防空壕については、既に対処したところであるが、ほかの現存する防空壕は、ほとんどが民有地である。調査終了後、早急に地権者の同意を得、安全対策のため、入り口の閉め切りを行う予定にしている。

(その他の質問事項)

企画商工行政、長崎地方務局大村支局の存続対応について。競艇事業の現状と今後の対策について。

自然環境を守り、生態系を保全し、安全な住環境を保っていく為の大村市の環境行政の展望とは

山口議員

市民環境行政について

ゴミを資源・エネルギーに含言葉に、循環型経済社会を目指し、環境保全への取組みが全国的に行われている中、大村市としてはどのような基本理念のもと取り組もうと考えておられるのか、お尋ねします。

産廃及び下水道処理汚泥の施設建設については、事前協議の場に、施設建設付近の地理環境に詳しい地元住民を参加させる方法は取れないのか。

現在、下水道処理汚泥については、市外からの搬入も無制限に許可されているようですが、県外からの搬入について規制がされているような事が市町村においては実現できないか。

各地にあるエコタウンのように環境産業を、行政主導により住民に迷惑のからない地域に集積するという事はできないか。